



会津放射能情報センター NEWS

住所：〒965-0877 福島県会津若松市西栄町 8-36 Tel & Fax：0242-23-9401
開館日：水木金土曜 10時～16時（国民の休日を除く）
E-mail：info@aizu-center.org 公式 blog：http://ameblo.jp/mamorukai-aizu/
Web：https://aizu-center.org

2020年5月25日発行

第31号

会津放射能情報センター

検索

新型コロナウイルスの拡大により被害を受けているみなさまにお見舞い申し上げます。猛威を振るうウイルスに大きな不安を感じる日々が続いています。闘病中、治療中の方の一日も早い快復と、救命に奮闘する医療従事者のみなさんの心と身体が守られること、様々な制限の中におかれている子ども達の健やかな成長を心から祈ります。この国が、市民の訴えに誠実に向き合い、いのちを守る知恵と行動力を得られるように、それぞれの生活の場から声を上げていきましょう。

SAFECAST 測定 1000 回を迎えて 会津放射能情報センター役員 山口 朗

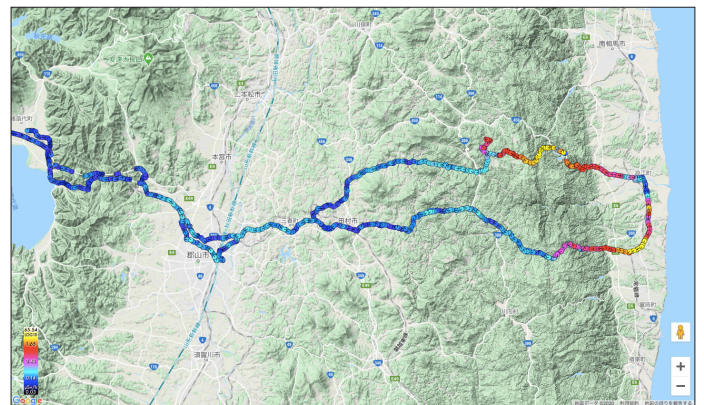
福島第一原発事故による放射性物質の拡散以降、私たちは身の周りの放射線量について関心を持つようになりました。「家族や子ども達の健康を守りたい。」「ここで暮らしても大丈夫なのか。」と不安に苛まれるようになったからです。しかし、日本政府と専門家は放射性物質の拡散や防護に関する情報を隠蔽し、市民の信頼を失いました。当センターでは、自分たちで線量データを集めてマップとして広く発信出来ないかという試行錯誤を重ねている折、SAFECAST との出会いがありました。



彼らは、「人々が安全性について判断を下すためには、信頼できる正確な情報にアクセスできる必要がある。」という信念を持ち、市民科学の結集で「ピーガイギー」という GPS と連動した線量計を開発し、集めた放射線量データを Web 上で地図に表示し閲覧できるシステムを構築していました。

このシステムとの出会いは私たちにとってまたとない好機でした。近所の公園から帰還困難区域、果ては海外へと様々な場所へ行き、徒歩、自転車、車で計測を重ねてきました。普通の市民が目に見えず不安だらけだった被ばくの世界を可視化し、世界中の人と共有出来るようになったのです。

そして 2020 年 3 月、累計計測が 1000 回に達し計測地点は延べ 300 万箇所となりました。この間、機器の提供やサポートをしてくださった SAFECAST のスタッフ、計測を支援していただいた多くの皆様に心からの感謝を申し上げます。この 7 年半、様々な場所で厳しい現実



を目撃しショックを受け考えさせられる機会もありましたが、蓄積したデータからは良い傾向を知ることができました。除染等により、予想していたより早く放射線量が低減し、事故前と同程度まで低減している地点が多くなってきたことも分かります。

SAFECAST では自動車等で行う移動計測に加えて、固定した線量計で 24 時間計測を行う線量計「ポイントキャスト」を国内では 20 箇所以上設置しデータ収集と公開を続けています。当センターでも浪江、南相馬、会津若松の 3 箇所を管理し、定点と移動式の 2 本立ての計測を行っています。

現在放射線量の変化は落ち着き、計測の需要も少なくなっていますが、今後はデータを継続記録しておくことが重要と考え、適時適切に計測を続けて行きたいと思えます。

出来るだけ多くのデータを収集する事に特化し、判断は人それぞれに委ねる…。SAFECAST が示してくれた「市民主体の科学」が新しい時代の希望となることを祈念し報告と致します。

■空間放射線量マップは下記 URL へ！

<http://km-aizu.jimdo.com>



会津放射能情報センター主催「大阪報告会」 多数のご来場に心から感謝！

共に生きる社会を目指して…

会津放射能情報センター代表 片岡輝美

2月8日から11日まで、日本キリスト教団大阪教区核問題特別委員会の共催を得て「考えること悩むことはいのちに向き合うこと～福島からのメッセージ」と題して4つの会場で、福島の実況報告会を行いました。また、この企画の情報を得た西宮市在住の支援団体・a littleさんから、報告会開催のご希望をいただき、急遽追加の報告会を開くことになりました。私は東電福島第一原発核事故直後から国や東電は「情報と基準のコントロール」を始めたこと、原発核事故被害の「見えない化・見せない化」だけ



でなく、東京五輪によって「美しいもの」に変えようとする国や福島県、東電の姿を行政交渉や新聞記事などを通して報告。

同行した測定担当・野木晃子さんからは測定の大切さ、難しさ、また自主避難の経験など当事者としての具体的な報告がありました。国との交渉を重ねながらモニタリングポストの当面の存続を実現させた母親たちの活動など、諦めない行動に勇気を得たとの感想が寄せられ、私たちにとてもいのちに向き合う人々との新たな出会い、嬉しい再会の時となりました。

8年間、人的支援として山崎知行医師を情報センターに派遣してくださる大阪教区、報告会共催団体として講演会を支えてくださった核問題特別委員会、全てを調整してくださった大阪教区事務所の鈴木祈主事、会場をご準備くださったみなさま、そして220名以上の参加者のみなさまに心から感謝いたします。



大阪から始まる繋がりが

大阪教区核問題特別委員会 山崎知行

2020年2月8日～11日に会津放射能情報センター主催で「大阪報告会」がもたれました。私の属する大阪教区核問題特別委員会は、この報告会の協力団体として受け入れに携わったので報告をします。と、言っても実態は大阪教区事務所の鈴木祈主事が実務的な活動をほとんど担って下さったので、私は各会場に参加させていただいただけ、というのが実情です。



これまで私たち核問題特別委員会は福島報告として、会津及び仙台での活動を報告し、あるいは時々片岡輝美さんをお招きして現地報告を受けてきました。今回は会津放射能情報センターが自ら主催して大阪報告会をなさることになったので、私たち核問題特別委員会は協力団体として受け入れに徹してきました。

4か所の会場にはそれぞれの会場教会の方々はもちろん、会場周囲の地域の人たちが大勢こられて、とても充実した報告会がもたれました。これまでは大阪中心部の会場での報告会でしたが、今回は四会場の地域に出かけての報告会でしたので、より多くの方々に福島の実況をお伝え出来たことがうれしい事でした。

それと今回はセンター代表の片岡輝美さんに加えて、放射線量測定担当のセンタースタッフ野木晃子さんが同行して下さって報告をいただきました。より一層具体的な理解が深まったものと思います。大阪教区では福島への関心が高く、今までの報告会でも毎回40人近くの方々が参加されるのですが、今回は4か所の会場がそれぞれにいつも以上の方が来られましたから、単純に今までの4倍以上の参加者にお集まりいただけたと言えるでしょう。

こうした繋がりが継続されることは関西人にとっても重要なことです。琵琶湖の直近に「福井原発銀座」を抱え、いつ起こるとも知れない事故におびえて暮らす関西人にとっては常日頃の身の置き方、考え方を継続していくときに重要な要素として「報告会」があると思います。福島事故は単に福島だけの事故ではありません。核事故であるがゆえに、

関西人の問題でもあります。この甚大な過酷な経験が関西人にとっての大きな学びになっています。

核事故は繰り返さないとの心構えが大事です。生活者としての視点で、常時監視するテクニックを身に付けていく覚悟です。

出会いに感謝いたします

放射線量測定担当スタッフ 野木晃子

放射線量測定担当者として、「放射能測定の状況」「測定の難しさ」「自分たちで確認することの大切さ」「情報センターでの放射能検査の目的と意義」についてのお話と、避難区域外から自主避難をした自分の体験についてのお話をさせていただきました。

参加された方々がとても熱心に耳を傾け、温かく声をかけてくださったことや、担当方のお心のこもった対応がとてもうれしく印象に残っています。



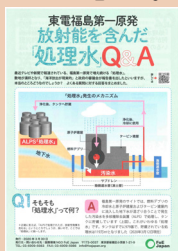
時間の都合もあり、個人的にゆっくりとお話することはできませんでしたが、センターを支えてくださっている皆様の近くに伺いお会いする機会をいただけたことに感謝しております。ありがとうございました。

Topics...

■「子ども脱被ばく裁判」は来る7月28日に結審を迎え、最後の「公正な裁判を求める署名」を提出します。1枚でも充分です。ご協力をお願いします。署名用紙が必要な方は、情報センターまでご連絡ください。



■東電福島第一原発の汚染水放出や日本原燃・再処理事業審査書に対するパブコメが募集されています。どんなに短くてもO.K.。私たちの声を届けましょう。検索は「政府パブコメ」で。



■ 2020年1月～4月の活動報告 ■

■ 1月

- 17日 シャベリ場 7名
来館：古郝荘八さん（大阪教区核問題特別委員会）
センター役員会
- 18日 山崎知行医師 個別相談 1名
- 23日 第24回 子ども脱被ばく裁判
- 23日～27日 来館：トミー・パーケットさん

■ 2月

- 1日 報告：「日本における市民科学について」
ヨーク・ケーネンスさん 9名
来館：水島希さん（総合研究大学院助教）
大沼章子さん（名古屋大宅大学院招聘教員）
- 8日 大阪報告会：高石教会 36名
- 9日 礼拝宣教：高槻教会 45名
大阪報告会：豊中教会 66名
- 10日 大阪報告会：a little 20名
- 11日 大阪報告会：久宝教会 61名
- 14日 第25回 子ども脱被ばく裁判
- 16日 来館：斎藤美喜さん（関東学院高校）
- 17日 来館：佐藤貴仁さん（日本聖書神学校）
- 19日 センター役員会
- 22日 シャベリ場 4名
- 29日 東京五輪開催抗議行動「だれのせいかりレー」
@広野町Jヴィレッジ 片岡輝美

■ 3月

- 4日 第26回 子ども脱被ばく裁判
- 9日 宗教者が核燃料サイクル事業廃止を求める裁判（略称：宗教者核燃裁判）東京地方裁判所に提訴
- 13日 山崎知行医師個別相談 → 中止
大阪教区核問題特別委員会来館 → 中止
- 14日 第5回 元自主避難者お泊まり会 → 中止
- 26日 子ども脱被ばく裁判会計監査

■ 4月

- 8日 センター役員会
- 11日 シャベリ場、小林恒司医師個別相談 → 中止
- 22日～5月12日まで
新型コロナウイルス感染防護でセンター臨時休館

■3月9日東京地裁に提訴された「宗教者が核燃料サイクル事業廃止を求める裁判」（原告211名）の訴状資料が出来ました。頒価は一冊1,000円で、たいへん読み応えがあります。ぜひお買い求めください。売り上げは裁判の諸経費に用いられます。

【事務局 片岡輝美】



ドイツからの便り ~コロナ政策中間報告~ ドイツ・シュトゥットガルト在住 ビュルクレ 修子

2015年6月、ドイツ・シュトゥットガルトで開かれたドイツ最大のプロテスタント教会集会（キルヘン・ターク）で、会津放射能情報センターの活動報告を行った際、私のホストファミリーになってくださったビュルクレ・修子（なおこ）さんに、コロナ禍を生きるドイツ市民として2020年4月末のドイツの状況を報告していただきました。【片岡輝美】

3月中旬からロックダウンが丸6週間続いたドイツの状況をレポートしたいと思います。4月末からは手始めに一部の規制が慎重に緩められて、今日で丁度1週間が経ちました。

とにかく感染者数の上昇カーブをできる限りなだらかにしないと、人工呼吸器や医師や看護師などの絶対数が足りなくなり、病院崩壊は必至だということが明確に示され、ロックダウンが始まる前から、一足先に集団感染が始まったイタリア、スペイン、フランスの悲惨な状況がドイツでも防げないかもしれないという危機感があったので、レストランも学校も劇場もとにかく何もかも閉鎖するという政府の決定に異議を唱える人は殆どおらず、メルケル首相がテレビで国民に訴えた「これは正に深刻な状況ですから皆さんも厳粛に捉えてください。」というメッセージが自然にドイツに住む人々の心に刻まれたと思います。



私が住んでいるバーデンヴュルテンベルク州はドイツの南西にあり、お隣のバイエルン州と並んで感染者数がドイツ国内でもひとときわ高いところです。この両州がフランス、スイス、オーストリアに隣接



しているということ踏まえるとドイツ国内でも特別危険なところと言っても良く、ウィンタースポーツをする家族が好んで訪れるイタリアも山を越えればすぐなので、集団感染で問題になった複数のリゾート地からコロナウィルスを直輸入したようなものでした。

イタリアやフランスで医療崩壊状態になったと

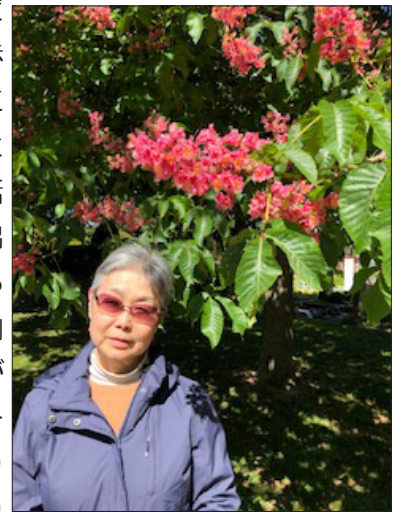
き、国境のない＝戦争のないヨーロッパがEUとしての誇りであったにも関わらず、ドイツはその他の諸国同様、国境を閉めただけではなく、医療機器や薬類が流出しないように「自分の国だけ守る姿勢」を示してしまい、最初のショック状態から醒めて初めて重病人をヘリでドイツに運んで治療する、などの隣人愛を実践し始めましたが少々遅きに失した感は否めません。

一般市民はとにかく「ソーシャル・ディスタンスィング」を実践することを毎日の目標にして、朝から晩まで自分の家で過ごすことに専念しました。例えば我が家は年金生活者の連れ合いと3食の献立を考え、のんびり昼寝などもしてから夕方の散歩に出かけるのが日課になっていました。人との接触はネットと電話のみで、食料の買い出しは幸いにも普段から行っている「土曜朝市」で新鮮な無農薬野菜が買え、普通にスーパーも開いていたのでとりあえず困ることはありませんでした。自主規制が始まってすぐは日本と同じくトイレトペーパーと麺類がスーパーマーケットの棚から姿を消し、ドイツ的なものとしては小麦粉とイーストも入手困難になりました。フランスで品薄になったのが、赤ワインと Condom だったというのが国民性の違いですか……。

また、公共の乗り物に乗る際と、買い物をする際にはマスク着用が義務付けられましたが、市販のマスクを入手するのはいまだに難しいので様々な工夫の未出来上がった「手作りマスク」が流行っています。カラフルでなかなか楽しいです。

教会やモスクなど宗教施設も閉まっていますが、一番厳重な自主規制の時期が丁度イースターと重なったため受難日の金曜礼拝、イースター日曜日礼拝だけは許可するように、と裁判所に訴えた人もいましたが却下されてしまいました。ちなみにドイツでは、裁判所が政府の決定を憲法違反だから、という理由で覆すことがままあります。

地元の教会からは礼拝のYouTubeが配信されたので教会に行かない私も「礼拝出席」を果たす形になりました。ドイツのイースターはクリスマス以上に「大家族が集まるイベント」になっていて、それぞれ



国中が移動する時期なのにその活動がなかったのが本当に不思議な静寂でした。

◇

イースター休みが終わり感染者数が徐々に減りつつあることを受けて、ロックダウンを緩和する措置をとることになったものの、何もかも一度に開けるわけにはいかないということから、民衆の不満がいろいろな形で噴出しつつあります。メーデーのデモもありました。自主規制緩和＝コロナはもう収束していると勘違いする人、また自主規制にはもう我慢できないと、ほぼやけくそになっている人など、今まで政府の方針に我慢強く従ってきた人たちが短い期間中に自己主張をするようになっていきます。ヒトラーが台頭してきた時代も、我慢に我慢を重ねることを強要された不満が、ああいう形になったらしいし……と思うと怖いです。



ドイツは「連邦共和国」なので中央集権国家と違い各州が独自の政策を取ることが可能なため、メルケル首相が各州の知事たちと会談しながら、全国的な規模である程度足並みを揃えようと努力しています。かなりのスピードで規制緩和を押し進める知事や大臣も出てきています。ただ感染率が州によって違うため、各州が独自の決定をすることについて、ドイツ連邦政府は必ずしもネガティブな発言はしていません。

むしろ、このロックダウンが本当に必要なことなのか、何が大切なのかを討論することは民主主義の基本であること、憲法で保障されているはずの「人間の尊厳」が例えば老人ホームの面会謝絶などを決定することで侵されているのではないかと問いかけること、政府が本当に個人の自由を奪うような政策を取り続けることがそもそも許されるのか、をじっくり考えるべきであると言っています。

政策を決めるにあたってアドバイザーとして機能している感染学者たちが、新型ウィルスについては前例がないため確実な予測はできない、と正直に自らの弱みを告白していることもあり、なお一層討論は活発になることでしょう。

討論することは歓迎されるとしても、今までの措置を放棄して唯一心配されることは、せっかく感染者の数を減らすことができているのに感染第二波に襲われることです。

ただし、ドイツ国民の大半は失業者を出さないようにドイツ政府が迅速に金銭的な保障を実践したこ

とで「本当にこんなに面倒な書類審査など無しの速い対策を取ってくれる政府で良かった」と実感したらしく、メルケルさんのキリスト教民主同盟の支持率がうなぎ上りです。そこが日本と大分違うのではないのでしょうか……。

◇

日本のことは外から見ていると本当に心配です。日本は何かあると必ず「本当の情報を流して民衆が動揺するといけないから」という理由できちんとした情報を流さず、国民が自分で何かを決定する機会をことごとく奪っています。フクシマのことも、事故当初も現在も同じ構造で、日本では「知らない人」が多すぎますね。それが国民一人一人が自分の行動に対して責任を負うことができなくなっている、という「負のスパイラル」として再三の自粛の呼びかけにも応えない集団を作り出している原因になっていると思わざるを得ません。

コロナは今後も引き続きじわじわと広がり続けるに違いありませんが、皆さまも政府が守ってくれない健康を死守するべく、くれぐれもお気をつけてお過ごしください。

毎日天気良すぎて（これも地球温暖化のせいなので放っておいていけないことの一つですが）3年連続の干ばつが、ほぼ確実になっているドイツより。



ビュルクレ・修子（なおこ）プロフィール

東京生まれ。音楽大学卒業と同時にドイツ人のW.ビュルクレ氏と結婚し渡独。今年で滞在45年になる。ピアノ教師をしながら日本人駐在員家族のために「すぐに役立つドイツ語講座」を開始し30年間講師を務める。また駐在員にはカウンセラーが必要だと痛感し資格を取得。今も現役で多様な相談に乗っている。

■ 2019年12月～2020年4月の感謝報告 ■

いつもセンターの働きをお憶えくださり、ありがとうございます。特記なき教会伝道所および教区は「日本基督教団」です。万一記載漏れがありましたら、センターまでお気軽にご連絡ください。(敬称略・到着順)

■個人

中山拓治、高橋千沙子、ロバート・ウィットマー、圭子ウィットマー、沼田典子、伊藤三和、最上光宏、坂本恭子、中村光一、矢野寛子、くずめよし、三浦忠雄、メンセンディーク・シェフリー、大木正人、高谷三郎、永富美加、竹内和夫、石井美雪、大城江利子、古賀悦子、東谷誠、西岡裕芳、小野洋子、本多香織、北辻美樹、行本善則、梅崎浩二、Sowers 宗田光悦、倉橋宇多子、斎藤隆子、櫻田ひろみ、島上きく、水谷千代美、阿瀬みな子、タナカマサヒロ、渡部里美、一木千鶴子、汐碓直美、大嶋果織、望月逸子、飯田瑞穂、金澤正善、藤吉求理子、飯田貴子、林 巖雄、福知千恵、中川 秀、與那城初穂、池田春善、守下宣子、美濃怜子、小林順子

■団体

三津教会、福島移住女性支援ネットワーク、岩国めぐみ幼稚園、代田教会、日本福音ルーテル稔台教会、横浜地区婦人委員会、仙台北三番丁教会、豊中教会、下ノ橋教会、桑名教会マナの会、平塚中原教会、京都上賀茂教会、武蔵豊岡教会、東洋英和女学院小学部母の会、新潟教会婦人会、札幌第二友の会、春日東教会子どもの礼拝、北光幼稚園、保内教会 松山東雲女子大学・松山東雲短期大学キリスト教センター、鶴川シオン幼稚園、イエス団みどり野保育園、浦和友の会、札幌元町教会、みどり保育園、大阪YWCA、日本福音ルーテル室園教会女性会、山梨英和学院、東梅田教会、東梅田教会教会がっこう、姫路野里教会、久万カントリーチャペル、めぐみ保育園、めぐみ子ども園、デイサービスセンター三愛、水沢教会、日本バプテスト宣教団池田キリスト教会、中野桃園教会、西片町教会、熱田教会、兵庫松本通教会、宮古教会、大阪西淀川教会、帯広教会、滝川二の坂伝道所、長崎銀屋町教会、地の塩福祉会愛光園、桜美林教会、松山教会、矢吹教会、山本愛泉保育園花の会、十日町教会、岩国東教会、鳳教会、甘楽幼稚園、日本聖公会東京教区、かな保育園、三原教会、いずみ教会、東神戸教会CS、鎌倉恩寵教会、南大阪教会、須磨教会、前橋教会、青森教会、水戸教会、共愛学園中学・高等学校、相模翠ヶ丘幼稚園、捜真小学校、障がいを負う人々・子どもたちと「共に歩む」ネットワーク、北海道クリスチャンセンター、豊岡教会、新潟教会、神戸栄光教会社会委員会、幕張教会、伏見教会、福山天使教会、甘楽教会、交野教会、阿倍野教会、高槻南平台教会、宇部教会、石橋教会婦人会、天満教会、武蔵野扶桑教会、阿佐谷東教会、世光教会、久米田教会、いずみ愛泉教会子どもの教会、多度津教会、紫野教会、霊南坂教会、四街道教会、西千葉教会、刈谷教会、津久見教会、西南学院高等学校、真駒内教会子どもの教会、元江別わかば幼稚園、福岡城東橋教会、紫野教会CS、洲本教会、柳井教会、愛隣教会、会津地区、二宮教会、美唄教会、大牟田正山町教会、鹿児島加治屋町教会、岩手キリスト教学園認定こども園ひかりの子、

全国教会婦人会連合、平安教会、水口子どもの教会、岡本教会、横浜港南台教会、富士見高原教会、同志社教会、恵泉女学園大学キリスト教センター、神戸北教会子どもの教会、農村伝道神学校、横浜英和学院、関西学院宗活動委員会、横浜共立学園、宿河原教会、国分教会、今治教会、桑名教会、小田原教会、廿日市教会土曜子ども会、兵庫教区女性会神戸Aブロック委員会、矯風会安中グループ、高の原教会、千葉教会婦人会、広島南部教会、西大和教会、久宝教会、宇部緑橋教会、京都西田町教会、水口教会、梅花高等学校自治会、高槻教会、河内松原教会、高石教会、城崎教会、尼崎教会、港南希望教会、岡山教会、喜界教会、島原教会、経堂緑岡教会、名古屋YWCA、札幌北光教会、島松伝道所、奥中山教会、兵庫教区フィリデー記念室委員会、扇町教会、松本教会、松山城南高等学校、神戸教会「放射能から子どものいのちを守る募金」、主恩教会女性会、名古屋中央教会、大分教会、学校法人聖光学園、大阪聖和教会、田園調布教会、溝ノ口教会、香椎教会、岡崎教会こども会、京葉中部教会、新生釜石教会、白河教会、広島流川教会、草津教会、大阪教区核問題特別委員会、吾妻教会、美唄キリスト教学園、美唄教会教会学校、旭川星光教会、三次教会、兵庫教区クリスチャンセンターフェスティバル実行委員会、広島牛田教会、広島西部教会、南山教会、One Voice 実行委員会、東広島教会、佐敷教会、美唄教会昼食会計、東神戸教会野の花の会、千里聖愛教会、刈谷教会CS、日本コイノニア福祉会大宮まぶね保育園、下落合教会、東洋英和福島のこと支援プロジェクト

■支援品

山口和枝、札幌北部教会、太平こどもの家、中村純子、四国教区、山崎知行、早稲田教会婦人会、松山城南高等学校、坂本恭子

■ ML に登録しませんか ■

原発関連の情報やお知らせをML(メーリングリスト)を使ってメールで配信しています。メールアドレスを登録すると配信メールを受け取ることができます。料金は無料で、受取停止の手続きも自分で簡単にすることができます。登録を希望される方はタイトルに「ML登録希望」本文に「お名前」を入れたメールを info@aizu-center.org にお送りください。

■ センター会員募集と年会費納入のお願い ■

- ・年会費：個人会員：3,000円 団体会員：5,000円
- ・協賛金：随時受け付けています。

●振り込み先(ゆうちょ銀行口座)

ゆうちょ銀行から

記号：02270-2 番号：116030

ゆうちょ銀行以外から

店名：二二九

種目：当座預金 番号：0116030

■ NEWS は HP にも掲載しています ■

郵送不要の方は、センターまでご一報ください。

【編集後記】たくさんのご支援ありがとうございます。不安な日々だからこそ、皆さんとの再会が楽しみです。(て)